令和４年度 富山市猪谷関所館運営協議会　議事概要

１　日　時　令和5年2月21日（火）　　午後 2:00～3:30

２　場　所　富山市猪谷関所館　2階大会議室

３　出席者（委員）加藤委員、三日市委員、江尻委員、吉岡委員、桐井委員（5名）
（事務局）礪波大沢野教育行政センター管理係長
舟杉猪谷関所館館長、松井会計年度任用職員（3名）

４　議　事

（1）令和4年度事業報告について
（2）令和5年度事業計画（案）について
（3）その他

５　主な質疑・意見等

（1）令和4年度事業報告について

館長　（運営協議会の資料に基づき説明。）

今年度はコロナの影響で行事を中止にすることなく、3年ぶりに全ての計画していた行事を実施できた。資料1の上のグラフで今年度の9月の入館者数が飛びぬけて多いのは、飛越ふれあい祭りが実施されたためである。

コロナ禍前の平成31年度と比べると、だいたい同じような入館者数になってきた。1月末現在の数値で比較すると、今年度は平成31年度の91パーセントにまで戻っている。

5月のゴールデンウイークの入館者が例年より少ない。企画展の円空仏写真展の関心が低かったのではないか。また、8・9月の入館者の増加は、企画展で地震を取り上げたが、能登地方で地震が発生し関心を呼んだこと、また、これまで実施していなかった解説会をしたことが大きい。そのほか、昨年度の運営協議会で、「地元の方に多く来てもらえるように」という意見を受けて、地元の方向けにも解説会を実施した。また10月は、企画展で神岡鉱山を取り上げた。解説会を複数回実施したほか、新聞に3回掲載された（飛騨地方の新聞にも）こともあり、多くの方に来ていただき、飛騨市、高山市からも約40名の来館があった。かつて大津山（神岡鉱山で栄えた地域）に住んでおられた方から、知人を連れてくるので解説会をして欲しいとの要望があり、実施した。開催最終日まで見に来られる方がおられ、企画展としては、これまでで一番の盛況ぶりだった。

資料4の「来館者の声」にもあるように、関所館は私と2名の管理人が、お客様に個別に説明している。「説明に満足」、「親切だった」とありがたいお言葉をいただいている。一度来た方が、再度友人を連れて来てくださることもある。

委員　1月末現在で入館者数5，300人というのは努力しておられると思う。

委員　自分が勤務している美術館は、入館者数が減っており、コロナ前の数には戻っていない。

館長　秋の企画展で多くの方に来ていただいたところが大きい。

委員　飛騨地方の方々に新聞でPRできればいい。

委員　細入地域の、かつて大津山に住んでおられた方々に声をかけ、企画展を観てもらった。

猪谷駅での列車の待ち時間に観覧してもらえるよう、駅から関所館へ誘導できるようにすれば、もっと来てもらえるのではないか。

委員　春のウオークに参加させていただき、地域の旧跡の魅力を知り、それを巡る学習を自分の小学校で実施した。館長から協力員を紹介してもらい、助けていただいた。

委員　コロナ前と比べて、いろいろな場面で団体のお客様が減っている。今後増えることに期待したい。

(2)令和5年度事業計画(案)について

館長　（運営協議会の資料に基づき説明し、原案通り了承。）

委員　企画展による集客が期待できるので、飛騨地方に関係のあるテーマだと、そちらからも来てもらえる。

館長　来年度は冬の企画展で鉄道を取り上げるので、多くの方に来ていただきたい。

委員　春の企画展で取り上げられる「和算」は、これまでになかったテーマである。和算に関する古文書が関所館にあることは知っていたが、館長が準備をされている。期待したい。

館長　夏休み中に小学生向けの企画も実施したい。休み中は、小学生と保護者の路線バス運賃が無料となる切符があるので、多くの方に来ていただきたい。

委員　企画展のチラシにクイズを載せたところ、集客につながった。（答えは来館したら分かる、という形で）　チラシやポスターから、見る人に何か問いかけるような内容を盛り込むのもよい。

(3)その他

委員　資料4の「来館者の声」で、どこから来られたかは、どのように把握しておられるのか。

館長　アンケート用紙にも書いてもらうが、お客様を迎え入れる際に、必ず「どちらからおいでか」を尋ねている。一人ひとり、説明内容を変えなければならないこともあるので。

委員　来られた方を大事にしておられる。人が人を呼ぶので、関所館の特色を大事にしてほしい。